

『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって (第3回)

第二章 戦後本願寺のあゆみ その概要

◎第二章の構成

本年、本願寺出版社より刊行した『増補改訂 本願寺史』第4巻の第二章では、戦後の勝如宗主、即如宗主の事績から、専如門主の法統継承に至る歩みを叙述しています。その内容は次のような構成からなっています。

- 一 勝如宗主とその時代
- 二 即如宗主伝灯奉告法要
- 三 退任後の勝如宗主
- 四 即如宗主とその時代
- 五 専如門主と法統継承

◎戦後の日本と宗門の動き

敗戦によって日本は、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の間接統治のもとで、「平和日本の建設」をめざす民主化が始まります。天皇主権から国民主権へ、男性の参政権から男女平等の参政権へ、旧民法の家父長制から改正民法によるいわゆる家制度の廃止へ、国家神道から政教分離・信仰の自由へ、宗教団体法の廃止から宗教法人令・宗教法人法へなど、さまざまな分野で民主主義を理念とする社会形成が本格化します。その後、70

年余の間に、日本の経済社会・地域・国民生活・宗教環境など多岐にわたって著しく変化します。

勝如宗主、即如宗主は、嬉子裏方、範子裏方とともに激変する戦後社会と教団の現状に強い危機感をもって、培ってきた教団基盤を継承しながら、浄土真宗のみ教えを伝えるため、これまでの教団組織・あり方・体質を見直しつつ、御同朋の社会の実現に向けて、門信徒会運動、基幹運動、教団の国際化など多岐にわたる分野において教団の発展に尽力されます。

第二章の内容の一部を紹介しましょう。

▼一 勝如宗主とその時代

勝如宗主は敗戦後、「平和日本の建設」に向けて消息を發布、教団の新たな宗制・宗法を制定するとともに、蓮如上人四五〇回遠忌法要を修行、さらに教区

及び組巡教を始めます。1958（昭和

33）年、大谷本廟親鸞聖人七〇〇回大遠忌予修法要御満座の消息で「浄土真宗の生活信条」を定め、1961（昭和36）年に親鸞聖人七〇〇回大遠忌法要御満座の消息を發布し、これを受け翌年に伝道教団への脱皮をめざし門信徒会運動が提唱されました。1967（昭和42）年には「浄土真宗の教章」を制定します。また海外開教区への巡教に出向、嬉子裏方と教団の国際化に尽力されました。嬉子裏方は国内外の仏教婦人会の発展にも奔走され、1947（昭和22）年には仏教婦人会総連盟が結成されました。

▼四 即如宗主とその時代

即如宗主は、1945（昭和20）年8月12日に誕生、1960（昭和35）年8月に得度、10月に立嗣奉告法要を修行します。1977（昭和52）年3月に法統を継承、翌年に制定された長期計画（宗

門発展計画）のもとで教団の発展に尽く

されます。1980（昭和55）年に伝灯奉告法要を修行、法要初日に「教書」を發布、翌年から教区・組巡教を始め、さらに基幹運動に取り組まれます。2008（平成20）年に「浄土真宗の教章（私の歩む道）」を定め、海外開教区への巡教や学術交流にも努め、範子裏方は国内外の仏教婦人会大会の出向などを通し、その発展に尽力されます。

▼五 専如門主と法統継承

専如門主は1977（昭和52）年6月13日に誕生、1992（平成4）年8月に得度、翌年2月に立嗣奉告法要を修行します。そして流豆美裏方との結婚、築地別院副住職に就任、教区巡回、海外開教区へも出向されます。2014（平成26）年6月に法統を継承、2016（平成28）年10月から伝灯奉告法要を修行、法要初日に親教「念仏者の生き方」を発

せられます。

私たちは、第二章から勝如宗主並びに嬉子裏方、即如宗主並びに範子裏方のご事績、さまざまな取り組みに学びながら、教団の歩みへの歴史認識を共有して、専如宗主並びに流豆美裏方とともに教団の未来を着実に開いていきたいと思っています。

本願寺史料研究所

『増補改訂 本願寺史』第4巻

8800円（税込・送料別）

A5判、908ページ

※ご注文は本願寺出版社まで